

「林業遺産」に選定された 木曾森林鉄道関連の遺構群

「木曾森林鉄道」は大正時代から昭和 40 年代にかけて、木曾地方で運用されていた森林鉄道の総称です。木曾ヒノキを始めとする木材の搬出に用いられ、歴史とその規模の大きさから国内では森林鉄道の代名詞的存在でした。また、木材の輸送のみならず山村に住む人々の生活の足として、乗客を運ぶ一般客車や、通学の学童を乗せる通学専用車なども運用されました。

十王沢橋梁（小川森林鉄道／上松町）



木曾谷で最初の本格的な森林鉄道である小川線の開業当初に架けられた橋梁の跡です。昭和 50 年の森林鉄道の廃止まで使われました。（大正 3 年竣工）

鬼淵鉄橋（小川森林鉄道／上松町）



鬼淵鉄橋は木曾森林鉄道の遺構の中でも最大級のもので、大正時代になって日本の鉄橋（トラス橋）は鋼材から製作まで国内の技術で作ることができるようになりましたが、この鬼淵鉄橋が現存する国産最古のトラス橋だと言われています。昭和 50 年まで森林鉄道の鉄橋として使われましたが、森林鉄道の廃止後、林道用の橋に改造されて使われました。平成 8 年に下流側に新しい道路橋が完成したため、廃橋となりました。

（大正 3 年竣工）

（経済産業省「木曾の森林鉄道関連遺産」にも指定されています）

小田野橋梁（小川森林鉄道／上松町）



小川森林鉄道の小川に架かる橋で、橋長 82.2m、両端にトラスが配置されています。昭和 41 年まで使われました。（大正 4 年竣工）
（経済産業省「木曾の森林鉄道関連遺産」にも指定されています）

ポールドウィン蒸気機関車（小川森林鉄道／上松町）



大正 4 年に輸入されたアメリカ製の蒸気機関車で、火の粉の飛散防止のための独特のユーモラスな形状の煙突が付いています。森林鉄道のシンボリック存在として地元の人からも親しまれました。赤沢自然休養林の森林鉄道記念館に展示保存されています。
（経済産業省「木曾の森林鉄道関連遺産」にも指定されています）

田島停車場跡地（王滝森林鉄道／王滝村）



田島停車場は旧御料林の時代から森林鉄道の施設や官舎群があった要所であり、往時は多数の車両が留置されていた場所でした。当時の建物は殆ど無くなっていますが、かつての木造機関庫と事務所建物が現存しています。

大鹿湫橋（王滝森林鉄道／王滝村）



王滝森林鉄道の大鹿湫に架かる鋼上路リブアーチです。鉄道の鋼アーチとしては最初期のものだと言われています。現在は林道橋として利用されています。（大正 12 年竣工）

第一阿寺川橋梁（阿寺森林鉄道／大桑村）



阿寺森林鉄道の阿寺川に架かる橋です。現在は橋の上が歩行可能となっています。（大正 14 年竣工）

※十王沢橋梁、鬼淵鉄橋、小田野橋梁、田島停車場跡地、大鹿湫橋、第一阿寺川橋梁については、「長野県の近代化遺産-長野県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書-」（2009年3月 長野県教育委員会）においても報告されています。